

1. 評価報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2471300422
法人名	社会福祉法人 グリーンセンター福祉会
事業所名	グループホーム グリーンピア名張
所在地 (電話番号)	名張市東田原2745番地 (電話) 0595-65-8500
評価機関名	三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 19 年 7 月 10 日(火)

【情報提供票より】 (H19年6月15日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 4 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 7人, 非常勤 2人, 常勤換算 7.3人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り		
	2 階建ての	階 ~	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	37,500 円	その他の経費(月額)	15,000 円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,400円			

(4) 利用者の概要(6月15日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	3 名	要介護2		0 名	
要介護3	4 名	要介護4		2 名	
要介護5	0 名	要支援2		0 名	
年齢	平均 83.4 歳	最低 76 歳	最高 92 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	釜本医院 岡波総合病院 あたらし歯科 上野病院 寺田病院
---------	------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

雑木林に囲まれ小鳥の鳴き声、樹木や野草に移り行く季節を感じるなど自然環境に恵まれたところである。既存の複合施設敷地内へ平成16年4月に鉄筋コンクリート造2階建を建築、その1階をグループホームにしている。裏には自作農園と広い庭園があり、室内は和洋両方式を取り入れ広く、採光、換気も良好である。また家具や調度品も家庭的なものであり落ち着き安心して暮らせる場になっている。代表者の方針で職員教育もしっかりと行なわれ、特にグループホームに合った女子職員が配属されている。職員は「笑顔、挨拶、言葉づかい」の理念を共有し実践している。また利用者一人ひとりがその人らしく暮らして行くために穏かでゆったりとした介護が行なわれている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での改善課題「ホーム独自の便りをつくり、家族へ配布を」は改善されていた。なおホームページを開設し在宅複合施設の中での紹介とパンフレットにもグループホーム記事を掲載している。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者及び職員は評価の意義目的をよく理解しており、自己評価も全員で行いサービスの質の向上に繋げる努力をしている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	行政、地域代表者及び利用者・家族に協力依頼し漸くメンバー構成と規定手続が完了し、9月に第1回目の開催を決定している。利用者が地域でその人らしく暮らして行くためにも、地域の理解や支援、率直な意見を貰うなど貴重な機関として充実化と効果を期待する。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の面会頻度が多く、気軽に話し合える関係の中で職員は利用者の状況報告と意見の聞き取りを行なっている。苦情については施設全体の苦情対策委員会で対応し解決に努めると同時に全職員に周知徹底している。ただホームに対する苦情は今までには無い。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	代表者は地域との関係を特に重視している。公民館活動文化祭等に作品の出品、運動会等催しへの見学、また近隣保育所との交流会(年3回)など地元の人々との交流に努めている。

2. 評価報告書

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	重要事項説明書に法人の理念として詳細に文書で記載、利用者・家族に詳しく説明している。また玄関とリビングには、理念「笑顔・挨拶・言葉づかい」の額が体裁よく掲げている。	○	今般の制度改正に伴いグループホームとして地域密着型サービスの役割をも含めた理念にされる事が望まれる。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員間で機会ある度に確認し合い、日々実践している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	運営者は地域との関係を特に重視している。文化祭等公民館活動に作品の出品、運動会等催しの見学、また近隣保育所との交流会(年3回)など地元の人々との交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員評価の意義をよく理解し自己評価も全員で行なっている。前回評価の改善項目についても全員で検討しサービスの質の向上に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行政および地域関係者へ協力依頼など準備をしていた。漸くメンバー構成、会議の実施体制が出来た。メンバーは、地域住民代表、市職員、地域包括センター職員、利用者および家族代表、ホーム側役職員で構成し、来る9月に第1回開催をきめている。	○	利用者が地域でその人らしく暮らしていくために地域の理解や支援、率直な意見を貰うなど貴重な機会であり、充実化と効果を期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営者が市の介護認定審査会委員、ゴールドプラン作成委員等にも携わると共に、市担当者とも機会ある度に施設全体を包括しての情報交換や協力依頼をしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	何れの利用者家族も週1回は面会がある為、きめ細かに様子を報告している。面会が遠のいた時や必要時には電話で連絡をしている。また金銭管理についても厳格な記録管理を行い報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に苦情受付担当者、機関を明記し説明している他、家族等来所時に意見等聞いている。寄せられた意見、苦情等は施設全体で苦情対策委員会を立ち上げ、些細な事でも報告し改善する体制を取っている。他施設の事例についても、ホームにあてはめ職員間で検討確認し、サービスに反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は異動による利用者への影響を充分承知していて最小限にとどめている。やむをえない時には本人、家族に説明し出来るだけ影響の無いように気配りをしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は職員の熟練度と研修案内を参考にし段階的、計画的に受講している。また受講後は内部研修にも活かしてサービスの質の向上に努めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	三重県グループホーム連絡協議会に職員が交替で参加し勉強や交流の機会を持っている。市内グループホームの催し等への見学もしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	昨年の例(系列ケアハウス利用者)として、お試し期間を設け雰囲気に徐々に馴染めるような配慮をした。今後も状況に応じて家族と相談しながら対応する方針である。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者に昔し話や体験を聞きだすように心がけ何時も会話が弾んでいる。また、いつの間にか出来た役割分担(配膳、片づけ、草花の手入れ、洗濯物たたみ等)に職員は教わる態度で温かい支援をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は、入居時の聞き取りや日常生活の中で知り得た生活歴を共有しながら本人本位の支援に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	アセスメントに基づいて利用者一人ひとりの状況を把握し家族の意見も取り入れ職員全員で話し合ったうえ、計画作成担当者が作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	2ヶ月に1回定期的に見直している。職員は何時も介護計画と照らしながら気づきを把握している。必要があればその都度見直しをする。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の協力も得ているが散歩、買い物、利用者の要望に応じた外出は日常的に、また通院、美容院への送迎など柔軟な支援をしている。指定介護予防認知症対応型共同生活介護、医療連携体制加算の認可も受けている。		
外出					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医は本人・家族の意向を尊重しているが現在は全員、法人協力医に委ねていて毎月定期に往診を受けている。体調変化時における協力医や看護師との連携、職員間の連絡体制は確立している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人や家族の希望を尊重して対応する方向でホーム内の意思統一が出来ている。	○	「重度化した場合の対応に係る指針」を制定し主治医、協力医療機関と連携を取りながら本人・家族の希望を満たせる体制作りに取り組んでいる。終末期ケアにはそれなりに職員の負担も増大すると思われる、計画的な研修が期待される。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報漏洩に関する規律は全職員に徹底されている。また職員の利用者への対応や言葉づかいも非常に穏かである。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は日々利用者との会話の中で本人が行ってみたい所、やってみたい事などを聞き出し出来るだけ希望にそった、その人らしい暮らしを支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は施設の厨房で作られているが時にはホームで利用者と一緒に(簡単な副食1品程度を)作るようにしている。食事、盛り付け、片付けも一緒にしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の健康管理に配慮して週3日の入浴日(午前9時~12時半・自由に)としている。それ以外日は朝夕に清拭、必要時はシャワーにより対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員は、入居時の聞き取りや、毎日の暮らしの中で知り得た一人ひとりの生活歴を共有しており、時々に応じ發揮出来る場面を作っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩、買い物は日常的に、時には公園や景勝地、地域の催しへ出かけている。また保育所で園児達と楽しい時間を過ごす等、希望に応じた外出支援をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は鍵をかけることの弊害をよく理解しており、自由に外出できるように、リビング、居室、庭園出口は鍵をかけていない。玄関は鍵をかけているが、職員は、利用者が外に出たくなる場面や理由を感知し希望をかなえている。鍵をかける事については家族の了解を得ている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	施設全体で消防署の協力を得て定期的(年2)に防災訓練を行なっている。防災管理マニュアル、連絡網も完備し徹底している。	○	運営者は自治会、民生委員を通じ地域へも協力依頼をしている。出来れば地域住民に参加を呼びかけての防災訓練が望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士による献立であり特に栄養バランスに配慮している。職員は一人ひとりの摂取量を記録し体調の変化にも気を配っている。水分補給も充分気をつけている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室内は全体に明るく換気もよい。和室の床には掛け軸と生け花、中央に座敷机、片隅に茶箆箆(飾り棚)が置かれていた。リビングではテレビを見ながらソファで思い思いに寛いでいる。また外の景色もよく見え、何処からともなく小鳥の鳴き声が聞こえて来るなど居心地よく過ごせる場所となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利便性とプライバシーを重視しトイレと洗面台は各居室に設置されている。ベッド、タンス、テレビはホームの物であるが個別に使い慣れた馴染みの物を持ち込み居心地よく過ごせる工夫をしている。		